

東京農業大学



# 湘南稲桜会だより

発行 東京農業大学 校友会神奈川県支部 湘南稲桜会 発行責任者 松居靖雄  
事務局 〒238-0032 横須賀市平作4-1-9 清水圭一方 TEL 046-854-0044

## <第23回湘南稲桜会総会開催>

令和元年5月19日(日)午後2時よりホテルハーバー横須賀にて来賓5名、講師1名、会員22名が出席して、第23回神奈川県支部湘南稲桜会定期総会が開催された。小清水副会長の司会により、廣濱事務局次長の開会のことば、松居会長のあいさつ、来賓の紹介の後議案審議に入った。平成30年度事業報告・収支決算報告、平成31年度事業計画・収支予算案について審議し異議なく原案通り承認された。次に来賓を代表して校友会神奈川県支部の加藤支部長より挨拶と大学の近況などについてお話をいただいた。

第2部の記念講演は、中沢酒造株式会社社長の鍵和田茂氏(昭和56年農芸化学科卒)にお越しいただき「松みどり純米吟醸 S.tokyo と酒づくり」と題した講演をいただきました。老舗蔵元として知られる松田町松田惣領の中沢酒造が、109年前に発見された「幻の酵母」を使った新酒「松みどり純米吟醸 S. t o k y o (エス・トーキョー)」の開発に関する苦労話など、大変興味あるお話で、終了後多くの

質問が出されましたが丁寧にお答えいただき大変有意義な講演でした。上品な甘口で爽やかな酸味があり、アルコール度数は控えめでワインのような口当たりが特長というお酒です。

記念講演終了後一同で記念撮影を行い、関副会長の司会により第3部の懇親会に移り、川名幹事の発声による乾杯の後、来賓を囲んで和やかに懇談し、来賓の祝辞、出席者全員の自己紹介と近況報告などで大いに盛り上がった総会となりました。今回は元全学応援団長の安齊勇貴君(S31国開卒)が参加しそのリードにより学歌を斉唱し、午後6時散会となりました。今回参加





できなかった会員の皆様も来年の総会には、ぜひご出席下さるようお待ちしております。

(事務局)

## <農大出身の羊飼い>

### 寺田信一 (S63 短期農業科)

初めまして。私は1987年度(88年3月)短期大学農業科を卒業した寺田信一と申します。読者の皆さんは、拙稿のタイトルをご覧になって、筆者の姿をどのように思い描かれたことでしょうか。



もしかすると、放牧されている羊たちに囲まれて、長い杖をつきながらのんびりと歩いているベドウィンのような姿を想像なさったかもしれません。そうとすれば誤解を与えて申し訳ありません。ここで言う羊飼いとは、キリスト教会の「牧師」のことであり(時にガウンを着ることもあります)普段は平服で過ごす至って普通の横須賀市民です。

私は高校在学中に青年海外協力隊員になることを願い、農大に入学しました。けれども、今は無き短農の在学中、イエス=キリストの神に召し出され、卒業後は三鷹市に在る東京神学大学という牧師養成機関に編入学したのです。その後5年間の学びを経て1993年3月に同大学院を修了。インターンの時期を経て牧師になりました。これはライセンスとしては世界中のプロテスタント教会に通用するもので、カトリック教会で言えば神父(司祭)に相当するものです。いずれにせよ、イエス=キリストの神から教会の人々を(神が所有する)羊と見なして養うように命ぜられました。これを教会用語では「司牧」とか「牧会」と言うのです。差し詰め、聖書の言葉は羊に食べさせる牧草、教会の礼拝堂は羊を集めて休ませる牧舎です。ただ、本当に養ってくださるのは神であること、大牧者はキリストであることを、神父も牧師も良く知っている者ですから、自分たちのことを大牧者たるキリストに用いられる「牧羊犬」

と考えることもあるのです。このことは牧師になってから益々実感するようになりました。

さて、私は牧師なので妻帯することが許され(その後4人の子を持つ父親にもなるのですが、この結婚式の披露宴で、農大の同窓生たちに大根踊りを披露してもらったことは嬉しい思い出です。私がウツカリして大根を手配し忘れていたため、急遽ビール瓶で踊ってもらうことになりましたが、旧友たちは嫌な顔一つせず、「青山ほひとり 常盤松～」と元氣よく踊ってくれました。列席の方々には農大健児の意気を目の当たりさせることが出来、且つ「大根踊りだ」「本物だ」「すごーい。ウケる～」と喜んでもらえました。もちろん私もそこで踊り、新妻も農大とは無関係ながら苦笑しつつ踊った次第です。ふりかえてみて、農大在学中に何が一番の思い出であったかと考えてみれば、やはり収穫祭であると言わなければなりません。本部開きや応援合戦の練習、神輿作りや舞台作り、ミスコンの学生の人選、宣伝隊への同行などなど、実に忙しく、それだけに充実した日々を送っていました(並行して卒業アルバムも作製しておりました)。当時の友人たちとは卒業後、先述の結婚披露宴の他に同窓会を数回開いていますが、必ず話題に上るのが収穫祭の思い出です。過去を懐かしみながら共に笑える仲間がいることは寔に幸いなことでした。

この交わりをととても強く実感したのは、兵庫県尼崎市にありました私の実家が1995年1月17日、あの阪神大震災によって全壊してしまった時です。あの時、小中高時代の友人はほぼ完全に離散してしまいましたが、逆に駆けつけて来てくれた友もありました。それが大阪府吹田市に在住していた短農の同窓生でした。地図を頼りに、勤め先の農協から物資を運んできてくれたのです。ブルーシートで包まれた実家でこれを食した時ほど有り難かったことはありません。今は亡き父は振り返る度に「農大の友人はすばらしい」と申しておりました。

そう言えば、『青山ほひとり』の中にこのような一節がございます、「農大健児はすまないが お米の実(ナ)る木がついている 昔も今も変わらない 人間喰わずに生きらりよか 命あつての物種(モノタネ)じゃ そりゃ惚れりゃんせ惚れりゃんせ」と。これはキリストがお語りになった『人はパンだけで生きるものではない。神の口から出る一つ一つの言葉で生きる』と書いてある(マタイによる福音書4.4)というお言葉に抵触するものではありません。キリストは人が「パンだけで」生きるのではないことを教えられたのであって、パンなど要らないとは仰有らなかったのです。何となれば、私は農大ではパンのために学び、またその学びを共有した仲間を与えられ、その後は、人を生かすために必要なパン以外のもの、すなわち「神の口から出る一つ一つの言葉」すなわち聖書の言葉で人々を養おうとなさる神に導かれ、用いられている、と言えましょう。そのようにして、私にしかできない仕方、人間が交わり

中でこそ、心身共に健やかでいられるということ、一人でも多くの人々に伝えていきたいと願って已まらずにいるのです。



(宗教法人「日本基督教団横須賀小川町教会」牧師)

## <農福連携の可能性>

### 鈴木雅智 (H17農学科)

こんにちは。プロ雅農園の鈴木雅智です。私は横須賀市長井、ソレイユの丘前で農家をしています。

東京農業大学では農学部農学科に入り、土壌学研究室で土壌の研究をしていました。大学卒業後は母校でもある神奈川県立平塚農業高等学校初声分校で11年間教鞭



をとり、稲桜会の川名先生と草花担当になり、たくさんのご指導をしていただきました。4年前に農業高校の統合の話があり、私が担任を外れたというタイミングもあって農業高校を退職し、家業を継ぎました。

「元農業高校の先生」という肩書は実に難しいもので、何でも知っていると思われそうですが、恥ずかしながら、教科書と実際の現場は違うことが多いことを知りました。教え子の方が農家歴の長い先輩という複雑な立場でもあり「三浦半島農業での自分の立ち位置は何なのだろう。何を目標にしていければよいのだろう。」と悩んでいました。また、父親は大きな農業の賞をとり目立つ存在だったので、何をしても「その息子さん」と思われるのが悩ましい所でした。

そんな時、出会ったのが SNS の存在です。中でも、Facebook と Twitter で自分の農園サイトを立ち上げることにしました。「鈴木農園」だとたくさんあるの

で、あだ名だった「プロ雅」から「プロ雅農園」という名前で活動することになりました。(プロ雅のプロは、当時わが家が、神奈川県で一番ブロッコリーを栽培していたこともあり、代表野菜だったことから、ブロッコリーまさとしという意味で大学の友人から呼ばれていました。)

誰が見ているかもわからない状態で、日々の畑の情報発信していきました。ただの「野菜栽培日記」ではおもしろくないだろうと思い、好きなイラストなどを多用し「楽しい農園」を目指しました。本来なら捨てる変な形の野菜を紹介したり、農業の失敗談など、普通は載せないものを紹介していきました。

すると、徐々に様々な所から反応がありました。たくさんのお販路ができただけでなく、農業雑誌の撮影依頼、テレビの取材の依頼や農林水産省の視察、静岡への講演依頼など幅広い活動へとつながりました。

そんな中、一つの大きな機転となる話が来ました。

「農福連携」です。簡単に言うと、仕事が多く人手の少ない農業分野と、人手は多くあるが仕事が少ない福祉分野を組み合わせれば、お互いの力を引き出せるのではないかと、ということです。実際に三浦半島農業の多くは家族経営で、大きな面積を数名で管理しています。1名が体調不良になったりするだけで、全体の流れが止まってしまう。



農福連携は、福祉施設のスタッフさんがメンバーさん(軽度の障害者など)と一緒に作業してくれます。私はずっと横にいてもスタッフさんに指示すれば、別の仕事もできます。人手不足だったわが家は「農福連携」によって救われました。メンバーさんも外の作業は気持ちがいいと言ってくれ、体力もつくという話もしてくれました。

しかし、こんな素晴らしい「農福連携」も新しく始めた農家さんは数日でやめてしまうということが起こりました。理由は「どう指導したらわからない。どんな風に伝えたらよいかわからない。」というのです。雇用慣れていない農家さんは、自分がすることはできても他人にさせることは苦手だと気づきました。農福連携に大切なのは障害者の指導だけではなく、農家の指導も大切だと思ったのです。農家歴が浅い私ですが教員として人に教えるということはずっとやってきたので、その分野は得意でした。私のやるべきことは「農福連携」のすばらしさを伝え、仕事内容の伝え方、心構えなど農家側に教えることかもしれないと思いました。

現在は、農福連携の会社や横須賀市と連携して、どのようにすればこの活動が広がり三浦半島農業の繁栄に結び付くか探っているところです。私にしかできない農業をこれからもしていきたいと思います。

## 〈進化するキャンパス〉

世田谷・厚木、両キャンパスに新たな中核施設がお目見えします。まず、世田谷キャンパスでは現在、新研究棟(仮称)が建設中です。その建設場所は長い間、多くの学生の学びの拠点であった、旧1号館跡地です。当時の講義棟として1956年(昭和31年)



(旧1号館)

に建てられ、我々世代にとって忘れられない建物で、緑豊かな中庭があり、学生のキャンパスライフの中心でもありました。その後、現1号館の完成によりその役目を終え、2013年(平成25年)に解体され、その跡地は造園科学科の学生たちの手によって、全面芝生地のユリノキ広場に生まれ変わり、多くの学生の憩いの場となりました。多くの学生が旧1号館で学び、ユリノキ広場で友と語り合ったその礎の下、建設中なのが新研究棟(仮称)です。敷地面積7,426平方メートル、地下1階、地上8階、世田谷キャンパスの中で最も巨大な建物で2019年11月に竣工し、

2020年4月より供用開始となります。昔は農学部のみでしたが、現在は6学部25学科と拡大充実し、同じ学部であっても別の棟に研究スペースを構えなければならなくなるなどの状況が、新研究棟(仮称)の完成により解消し、全ての学部学科が新研究棟へ移設し学部学科のまとまりを作り、また、共有部分を充実させることで、学部学科間の交流を促進させることが期待できるようになるとのことです。



(新研究棟(仮称)完成イメージ)

次に、厚木キャンパスでは、講義棟向かいのスペース880平方メートルに地上3階建てで新実験・実習棟が建設中で外観はほぼ完成です。今年9月下旬の供用開始を目指し、1階は肉・乳・農産物の加工実習を行う食品加工実習室、2階3階はそれぞれ生物系及び化学系の実習室となるようです。農大ホロボロプリンや農大カタラーナのように農産物を育て、加工し、販売する一連の流れを学べる施設環境が整うこととなります。

各施設が完成後、世田谷キャンパス・厚木キャンパスどちらもゆっくり見学したいものです。

(事務局)



(厚木キャンパス新実験・実習棟)

## <美術展を見学してきました>

### 清水圭一 (S46 造園学科)

8月29日(木)~9月1日(日)神奈川県民ホールギャラリーで第18回かながわシニア美術展が開催されました。湘南稲桜会の関副会長が日本画の部へ出展され、応募以来の入賞を連続しています。『乙女のしとやかさ』の画題でカラーの花にクロアゲハが止まっている様子が描かれています。クロアゲハの羽のグラデーションの様子が鮮明に描かれており、繊細な技と大胆な構図にしばし見とれてしまいました。湘南稲桜会での活動、校友会県支部女性部会、地域でのボランティア等と多方面で活躍の中での日本画制作。そのエネルギーにあやかりたいものです。91歳になられるお母様も日本画を描かれており、今回は水墨画の『菖蒲』がかながわ福祉サービス審査会賞を受賞されました。おめでとうございます。

まだまだ頑張らなければとの思いで鑑賞させていただきました。



## <地区の活動>

今年の夏は、例年になく長い梅雨、そしてその後の猛暑、豪雨による大きな被害とここ数年日本の夏の様子が変わってきました。地球温暖化の影響でしょうか？三浦半島地区は幸いにも豪雨に合わず、秋の気配も少しずつ出てきたような気がします。

今年も逗子地区の会員の皆様のご尽力による恒例の暑気払いは、鈴木久彌会員(S33 学農)のご厚意により7回目の開催となりました。第1回目の時にお会いした久彌さんのお孫さんがご立派に成長された様子に時のたつ早さを感じました。逗子・葉山地区以外の会員にも声をかけ8月25日(日)にバーベキューを行いました。

今回は、初参加の会員、ご家族合わせて13名となりました。鈴木久彌会員の娘さん鈴木由美会員(H1 学造)、関副会長(S50 学栄)の準備した手料理、参加者が持ち寄った葉山牛、美味しい日本酒など堪能

しました。

学生時代を懐かしむ話で大いに盛り上がり意外なところで繋がりがあったことなどを発見し、あっという間に時間が過ぎてゆきました。ケガをして歩くのが辛い中、下嶋武志会員(S45 学造)が美味しい葉山牛を届けてくださり、いつものスマイルに一安心しました。総会や研修会とは一味変わった校友の集まりでした。(事務局)

参加の下嶋武志会計の一句

秋風も 熱暑残せり 蝉しぐれ

居張るより 焼けて香れり 葉山牛



## <会員からのたより>

総会の出欠席回答はがきに寄せられた会員のたよりをお伝えします。 敬称略(事務局)

### (横須賀地区)

- ・石橋 順作 (S34 学林)  
毎日散歩しています。
- ・小清水 征雄 (S39 学畜)  
講演会「松みどり・純米吟醸 S.tokyo と酒づくり」楽しみです。
- ・江間 三恵子 (S39 学栄)  
女性部会の竹の子掘りは楽しかったです。
- ・池田 厚 (S48 学造)  
総会で皆様にお会いするのを楽しみしています。
- ・林 輝幸 (S49 学造)  
本年4月1日をもって勤務生活を卒業しました。  
所用があり出席叶わず申し訳ありません
- ・菊本 充 (S58 学経)  
福岡での単身赴任生活が5年目に突入しました。
- ・湖水 康史 (S62 学農)  
順調な天候で、安値の冬でした。
- ・深澤 貴光 (S63 学工)  
来年3月までは、都内五輪会場の周辺で勤務の予定です。農大関連の催物には積極的に参加しようと思っています
- ・齋藤 道生 (H13 学工修)  
都立大島高校農林科勤務13年目になりました。  
すっかり島人(しまじん)です。

### （鎌倉地区）

- ・梅澤 稔（S33 学農）  
皆様には大変お世話になりながら所用があり総会には申し訳ありませんが欠席させていただきます。
- ・渡邊 文雄（S59 学工）  
既に予定があり参加できません。ご盛会を祈念致します。
- ・安齊 勘一郎（S60 学農）  
鎌倉野菜作りに励んでいます。
- ・安齊 勇貴（H31 国関）  
4月よりサカタのタネに入社しました。社会人一年目です。

### （逗子地区）

- ・関 恵梨子（S50 学栄）  
ボランティア連絡協議会、地域住民協議会それぞれの役員を退任できました。自分の時間を大切にしていきたいと思えます。
- ・鈴木 由美（H1 学造）  
いつもお世話になっております。さきに父と遠出の予定が入っており、欠席いたします。

### （三浦地区）

- ・池田 尚弘（S40 学農）  
大変お世話様です。欠席がちで済みません。今回は伺えそうですのでよろしくお願いします。

## ＜会員増強のお願い＞

未加入校友に声かけ運動をすすめよう  
毎年、会員の加入促進に取り組んでいますが新規加入者は微増にとどまっています。  
「湘南稲桜会だより」への掲載、会員・役員の声かけ等、常時行っていますが実績は芳しくありません。将来的に稲桜会が維持・発展してゆくためには新規会員の加入促進が急務であります。ぜひとも、会員皆様の力が必要です。お知り合いの方に声かけし加入をすすめて下さい。新規加入についてのアイデアがございましたら事務局へご連絡ください。  
(会員増強対策委員会)

## ＜会費納入のお願い＞

毎度のお願いになりますが、年会費 3,000 円を未納の方は同封の郵便払込取扱票にてよろしくお願ひいたします。  
会の活動・運営に欠かせない会費であります。  
(事務局)

## ＜編集後記＞

湘南稲桜会だより 42 号をお届けします。  
2 国間の日米貿易協定交渉が 8 月下旬、閣僚協議を経て日米首脳会談で大枠合意に至った。焦点となったのは日本の農畜産物の市場開放と自動車の関税

撤廃問題。米国産牛肉については TTP（環太平洋経済連携協定）と同様に現行 38.5%の関税を段階的に下げ 16 年目に 9%に引き下げる。豚肉についても TTP と同様とする。米国向けのセーフガード（緊急輸入制限措置）をもうけ輸入急増に歯止めをかける。しかし TTP 加入国との調整が必要である。日本の乗用車に米国がかけている 2.5%の関税撤廃は見送られた。米国は日本への最大の農産物輸出国であり、9 月にも日米両首脳が協定に署名し交渉に合意すれば一層の市場開放が進み、国内農業への影響は必至であろう。

過去の貿易交渉では「大筋合意」の表現であったが、今回は「大枠合意」となり気がかりである。（内容が開示されていない為か） (M. K)

## ＜令和元年の研修会＞

今年の研修会スケジュールが下記の通り決まりました。  
数年前から地元三浦半島の歴史や自然と接する研修会を行ってきましたが、今回は**食を楽しむ研修会**としました。場所は横須賀市津久井浜の観光みかん園で美味しいみかんをたっぷり食べていただくというものです。津久井浜のみかんは太陽の光をたくさん浴び、甘さと酸味のバランスが絶妙とのこと。みかん狩りの後、付近の温室でイチゴ栽培をしている農家の方から栽培等についてお話を聞くことも計画しています。（いちごは食べられません）  
ご家族・お友達お誘いの上、ご参加ください。懇親会も久里浜のひさご寿司本店で美味しい地元の魚や野菜を使用した、お寿司、天ぷらを楽しめる計画にしました。

- 1 日時 令和元年 10 月 27 日（日）  
午後 1 時～3 時 30 分
- 2 行程 京急津久井浜駅→津久井浜観光農園（徒歩 20 分）→付近の温室→京急津久井浜駅（解散）  
解散後、希望者による懇親会を行います。
- 3 集合時間・場所  
午後 1 時 京急津久井浜駅
- 4 懇親会 午後 4 時ごろから京急久里浜駅前  
ひさご寿司本店
- 5 参加費  
研修会参加費： 650 円（入園料）  
懇親会参加費： 5,000 円  
両方参加： 5,650 円
- 6 申込み 10 月 19 日（土）までに  
湘南稲桜会事務局へ